

2018年12月1日(土)

会場: 法政大学市ヶ谷キャンパス

多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全再生 第3回シンポジウム

主催

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会

多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全と再生 第3回シンポジウム

市民が選ぶ玉川上水と分水網の関連遺構 100選

～玉川上水・分水網にまつわるお宝をみんなで次の世代に伝えていきませんか～

■プログラム

開演: 午後1時30分

総合司会 須磨佳津江(キャスター・ジャーナリスト)

主催者挨拶 ● 田畑貞寿(玉川上水・分水網保全再生連絡会代表)

1. シンポジウムの趣旨について

福井 恒明(法政大学江戸東京研究センター・外濠再生懇談会)

2. 報告

報告(1)「玉川上水・分水網関連遺構100選」

・西村 幸夫(プロジェクト未来遺産委員長 神戸芸術工科大学教授)

・玉川上水分水網100選を読む: 真下祥幸(江戸東京博物館学芸員)

報告(2)「玉川上水・分水網の関連遺構と試験通水を巡って」

山田正(玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会代表
中央大学教授)

(休憩)

3. パネルディスカッション

「水の縁でつなぐ玉川上水・外濠・日本橋川」

司会: 谷下 雅義(中央大学理工学部教授)

パネリスト

西村 幸夫(プロジェクト未来遺産委員長 神戸芸術工科大学教授)

真下 祥幸(江戸東京博物館学芸員)

陣内 秀信(法政大学江戸東京研究センター特任教授)

竹村 公太郎(日本水フォーラム代表理事)

山本 泰人(日本橋再生推進協議会 水辺再生研究会理事長)

今後の展開について(事務局)

終了: 午後4時

■プロジェクトの趣旨

玉川上水・分水網は、羽村堰を頂点として武蔵野台地を樹枝状に展開し、低地・下町へと連なる土地に刻まれた水循環と情報のネットワークとしても見る事ができます。このような視点から、各地域に刻まれた玉川上水・分水網の関連遺構や現地の流路の痕跡等をたどれば、分水路(痕跡)・玉川上水・羽村堰へと連なる膨大な自然・歴史文化の展開を実感できるのではないのでしょうか。

このプロジェクトは、地域毎に玉川上水・分水網に関連して調査・活動している多くの市民(団体)が発掘した情報を持ち寄り、玉川上水・分水網の水路系統と関連遺構を全体で約100点に絞って選定し顕彰、さらに共有化を促すことを目的としています。そして水路と関連遺構、市民活動のネットワークを背景に、関係行政機関の協力と連携のもと、玉川上水・分水網の保全と水循環の再生、さらに日本遺産認定への道筋をつけたいと思っています。



パネルディスカッション風景



事務局から今後の展開説明風景



福井恒明法政大学教授



西村 幸夫神戸芸術工科大学教授



真下祥幸
江戸東京博物館学芸員



山田正中央大学教授



陣内 秀信法政大学特任教授



竹村 公太郎
日本水フォーラム代表理事



山本 泰人水辺再生研究会理事長
登壇順紹介 敬称略